

**10~12月期の業況はわずかに改善**  
**【特別調査】 - 「2020年（令和2年）の経営見通し」**

**【調査要領】**  
 調査時点：2019年12月上旬  
 調査対象：西兵庫信用金庫お取引先102社  
 調査方法：調査票を用いた面接による聞き取り調査  
 調査企業数：102社  
 調査票回収：102社  
 調査対象地域：西播磨地域（宍粟市、相生市、赤穂市、たつの市、揖保郡、赤穂郡、佐用郡）

分析方法：D.I. (デフュージョン・インデックス) による分析  
 景気の方角感を判断するために使う指数。各質問項目で、「良い」と答えた割合から、「悪い」と答えた割合を引いて算出する。

回答企業の業種別内訳

業種	回答企業数
製造業	32
卸売業	11
小売業	17
サービス業	19
建設業	18
不動産業	5
総計	102

（例）

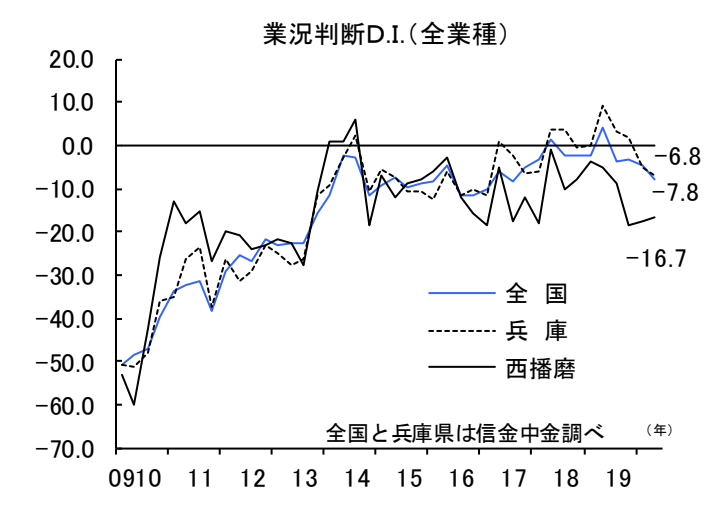
	良い	普通	悪い	合計
回答数	10	5	5	20

(良い)50% - (悪い)25% = (D.I.)25

**全業種総合**

~景況感はわずかに改善~  
 19年10~12月期（今期）の業況判断D.I.は△16.7と、前期比0.9ポイント改善した。前期に比べ業況が「悪い」と回答した企業の割合が0.9ポイント低下したことによる。前年同期比の売上判断D.I.は△7.8と前期比11.8ポイント改善し、同収益判断D.I.は△12.7と前期比6.9ポイント改善した。

業種別の業況判断D.I.は、製造業・卸売業・サービス業で改善した一方、小売業・建設業・不動産業で低下した。

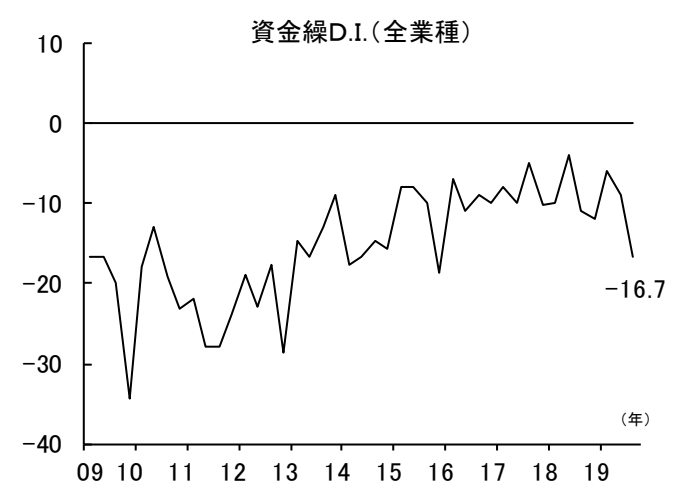


過去4四半期の業況判断D.I.を平均して判定

**【業種別天気図】**

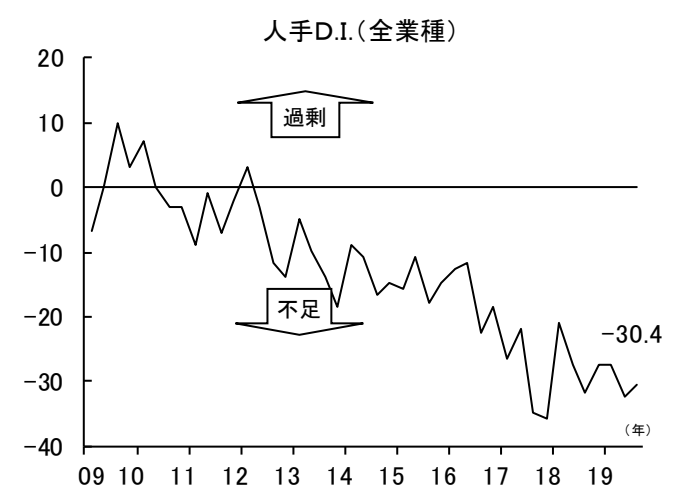
業種名	2019年7~9月	2019年10~12月	2020年1~3月(見通し)
総合	晴	晴	晴
製造業	晴	晴	晴
卸売業	晴	晴	晴
小売業	曇	曇	曇
サービス業	晴	晴	晴
建設業	曇	曇	曇
不動産業	曇	曇	曇

快晴 晴れ 晴れ時々曇り うす曇り 曇り 雨 大雨  
 好調 ← → 低調



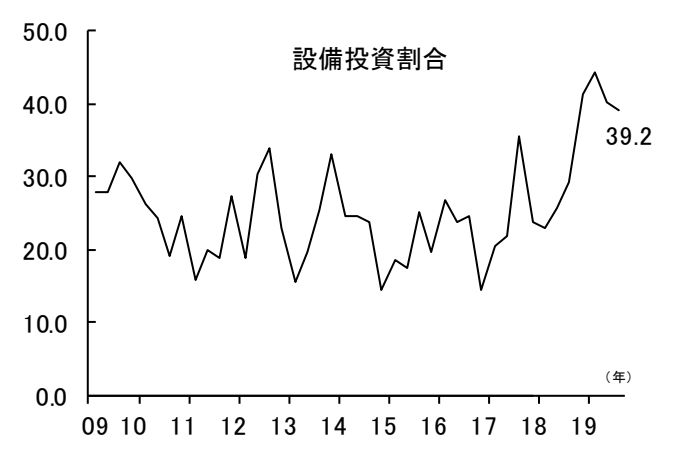
~販売価格判断D.I.は改善・仕入価格判断D.I.は上昇~  
 販売価格判断D.I.は3.9と、前期比2.9ポイント改善した。仕入価格判断D.I.は、23.5と前期比9.8ポイント上昇した。

~資金繰判断D.I.は低下~  
 資金繰判断D.I.は△16.7と、前期比7.9ポイント低下した。業種別では、製造業が前期比3.1ポイント、不動産業が同20.0ポイント改善した。一方、卸売業が前期比27.3ポイント、小売業が同11.8ポイント、サービス業が同15.8ポイント、建設業が同11.1ポイント低下した。



~人手過不足判断D.I.は、人手「不足」感がわずかに弱まった~  
 雇用面では、人手過不足判断D.I.が△30.4（マイナスは人手「不足」超）と前期比2.0ポイント改善した。残業時間判断D.I.は0.0と、前期比5.9ポイント上昇した。残業時間が「減少」したとする企業の割合が増加したことによる。

~設備投資実施企業割合は低下~  
 設備投資実施企業割合（不動産業を除く企業のうち設備投資を実施した企業の割合）は39.2%と、前期比1.0ポイント低下した。



~来期の景況感は今期実績比低下する見通し~  
 来期の予想業況判断D.I.は△20.6と今期実績比3.9ポイント低下する見通しとなっている。

業種別の予想業況判断D.I.は、サービス業が今期実績比5.2ポイント、建設業が同22.2ポイント、不動産業が同20.0ポイント改善する見通しである。一方、製造業が今期実績比25.0ポイント、卸売業が同18.1ポイントそれぞれ低下する見通しである。小売業は横ばいの見通しである。

**<経営上の問題点>**

経営上の問題点としては、「売上の停滞・減少」が41%、「人手不足」が31%、「利幅の縮小」が27%「同業者間の競争の激化」が21%、と多く、その他では「人件費の増加」が18%となっている。

**<当面の重点経営施策>**

当面の重点経営施策としては、「経費を節減する」が48%、「販路を広げる」が42%、「人材を確保する」が33%と多く、その他では「情報力を強化する」が15%、「教育訓練を強化する」が11%、「提携先を見つける」が8%となっている。

経営上の問題点

順位	全業種	割合
1位	売上の停滞・減少	41%
2位	人手不足	31%
3位	利幅の縮小	27%
4位	同業者間の競争の激化	21%
5位	人件費の増加	18%

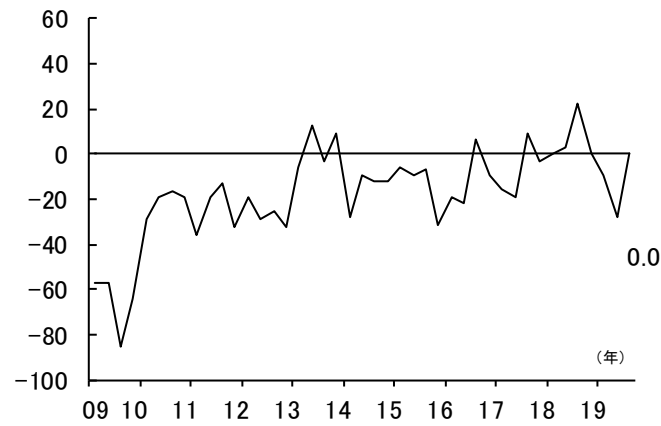
当面の重点経営施策

順位	全業種	割合
1位	経費を節減する	48%
2位	販路を広げる	42%
3位	人材を確保する	33%
4位	情報力を強化する	15%
5位	教育訓練を強化する	11%
6位	提携先を見つける	8%

※2009年12月期までは、信金中金が「全国中小企業景況動向調査」として実施している当金庫調査対象30先のデータであり、2010年1月以降は、新たに調査対象先を追加し西播磨地域に限定したデータとなっている。

## 製造業

業況判断D.I.(製造業)



### ～製造業の景況感は改善～

今期の業況判断 D.I.は 0.0 と、前期比 28.1 ポイント改善した。

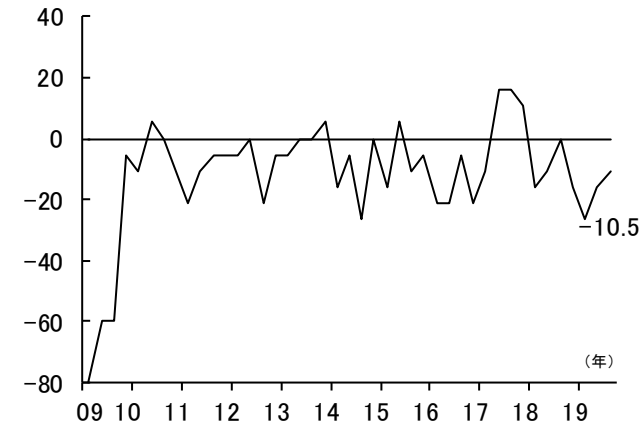
前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 3.1$  と前期比 15.7 ポイント、同収益判断 D.I.は 0.0 と前期比 21.9 ポイント改善した。

設備投資実施企業割合は 25.0%と、前期に比べて 6.3 ポイント低下した。資金繰り判断 D.I.は $\Delta 9.4$  と、前期比 3.1 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 28.1$  (前期は $\Delta 25.0$ ) と人手不足感は強まった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 25.0$  と今期実績比低下を見込んでいる。

## サービス業

業況判断D.I.(サービス業)



### ～サービス業の景況感は改善～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 10.5$  と、前期比 5.3 ポイント改善した。

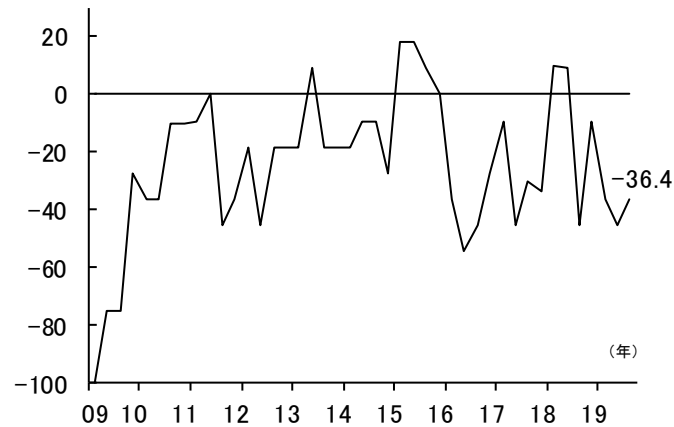
前年同期比売上額判断 D.I.は 0.0 と前期比 31.6 ポイント改善した。同収益判断 D.I.は $\Delta 10.5$  と前期比 26.3 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 26.3$  と前期比 15.8 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 31.6$  (前期は $\Delta 36.8$ ) と人手不足感は低下した。残業時間判断 D.I.は $\Delta 5.3$  と、前期比 26.3 ポイント低下した。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 5.3$  と、今期実績比 5.2 ポイント改善を見込んでいる。

## 卸売業

業況判断D.I.(卸売業)



### ～卸売業の景況感は改善～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 36.4$  と、前期比 9.1 ポイント改善した。

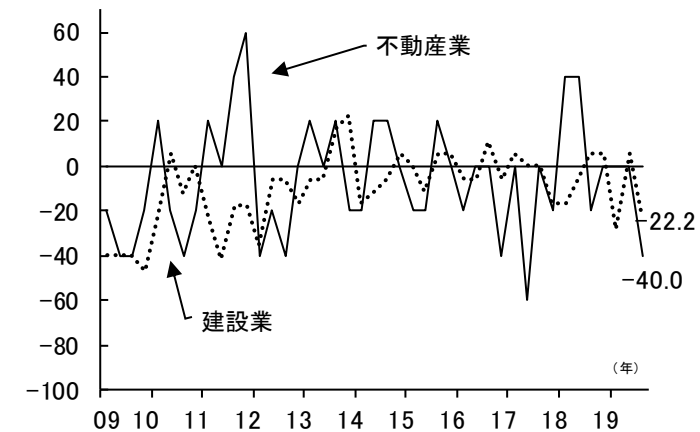
前年同期比売上額判断 D.I.は 9.1 と前期比 45.5 ポイント、同収益判断 D.I.は $\Delta 18.2$  と前期比 27.3 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 18.2$  と、前期比 27.3 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 27.3$  (前期 $\Delta 18.2$ ) と人手不足感は強まった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 54.5$  と、今期実績比 18.1 ポイント低下を見込んでいる。

## 建設業、不動産業

業況判断D.I.(建設・不動産業)



### ～建設業の景況感は低下～

今期の建設業の業況判断 D.I.は $\Delta 22.2$  と前期比 27.8 ポイント低下した。前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 16.7$  と前期比 16.7 ポイント低下した。同収益判断 D.I.は $\Delta 16.7$  と前期比 16.7 ポイント低下した。受注残判断 D.I.は $\Delta 16.7$  と、前期比 16.7 ポイント低下した。

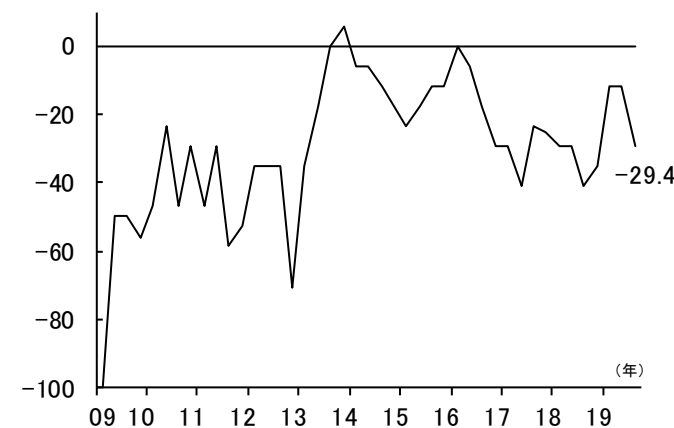
資金繰り判断 D.I.は $\Delta 11.1$  と、前期比 11.1 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 33.3$  (前期 $\Delta 50.0$ ) と、前期比 16.7 ポイント上昇し、人手不足感は弱まった。来期の予想業況判断 D.I.は 0.0 と、今期実績比 22.2 ポイント改善を見込んでいる。

### ～不動産業の景況感は横ばい～

不動産業については、調査対象先の少なさを考慮する必要があるが、今期の業況判断 D.I.は $\Delta 40.0$  と、前期比 40.0 ポイント低下した。前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 40.0$  と前期比 60.0 ポイント低下した。同収益判断 D.I.は $\Delta 40.0$  と、前期比 40.0 ポイント低下した。資金繰り判断 D.I.は 0.0 と、前期比 20.0 ポイント上昇した。在庫過不足判断 D.I.は 0.0 と、前期比 20.0 低下した。来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 20.0$  と、今期実績比 20.0 ポイント改善を見込んでいる。

## 小売業

業況判断D.I.(小売業)



### ～小売業の景況感は低下～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 29.4$  と前期比 17.6 ポイント低下した。

前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 17.6$  と前期比 11.8 ポイント改善した。同収益判断 D.I.は $\Delta 23.5$  と前期比 17.6 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 29.4$  と、前期比 11.8 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 35.3$  (前期は $\Delta 29.4$ ) と人手不足感は強まった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 29.4$  と、今期実績比横ばいを見込んでいる。

## 調査員のコメント

**製造業**：働き方改革により今期は従業員の労働時間が大幅に減少し、労務費の削減につながった。

**卸売業**：仕入値が上がっているが、それを売値に転嫁できない。

**小売業**：キャッシュレス決済の割合が増加している。現金と比べて資金化が遅く資金繰りに悩むことがある。精肉販売よりも差別化を図れる加工品を主力にすることで価格競争にならないようにしていく。

**サービス業**：地元固定客中心に確保できているが、同業者との競争もあり、売上はやや減少傾向にある。今後はアフターサービスの向上を行い既存固定客の囲い込みをしていく。

**建設業**：災害復旧工事等の受注がある一方、民間工事の受注は減少している。資金繰りが厳しい。